

「おおだて未来づくりプラン」見直し案へのパブリックコメントの件数と本市の考え方

項 目		件数	市の考え方区分（ ）		
			A	B	C
分野別戦略 1	命を守り育む暮らしづくり	3	2	1	0
分野別戦略 3	力強くひと・ものが行き交うなりわいづくり	5	1	4	0
分野別戦略 4	未来を見据えた国内・世界への架け橋づくり	2	2	0	0
	その他 (複数の分野に跨る施策、プラン全体など)	7	2	3	2
	合 計	17	7	8	2

市の考え方の区分

A：意見をおおだて未来づくりプランに反映するもの、または計画案に反映されているもの、既に取り組んでいるもの

B：意見を踏まえ事業を進めるなかで検討をするもの

C：その他（複数の分野に跨る施策やプラン全体への意見など。施策の参考とするもの）

～ いただいたご意見と市の考え方について ～

分野別戦略1 命を守り育む 暮らしづくり

施策1－1 未来の希望を守る結婚・子育て支援

No.	ご意見	市の考え方	市の考え方の区分
1	未来の希望を守る子育て支援と家族に優しい社会の実現「こどもたちへの安全・安心な放課後の居場所の提供」について(追加・補正)・登下校時などに熊などの鳥獣被害を未然に防止するため対策を強化します。を追加してはどうか。	クマ対策は本市においても喫緊の課題と理解しております。市内全校にクマ鈴、忌避剤、クマ撃退スプレーを配付しておりますが、目撃情報や捕獲件数が過去最多となるなか、予断を許さない状況が続いています。 目撃情報があり次第、速やかに市の公式LINEやXで情報発信を行い、また、警察など関係機関と情報共有しながら、注意喚起の広報活動を行ってまいります。	A
2	経済的支援は「国や県と連携」とあり、市独自の支払に消極的であるが、ヤングケアラーへの支援、妊産婦の孤立の軽減が加えられていることで真価が問われる。お金をかけない支援は、かける支援より難しい。	保育料・給食費の無償化にあたっては、継続的な一般財源の確保が必要となるほか、小・中学校の給食費との整合もあることから、保護者の皆様に一定のご負担をいただいているところです。子どもに係る保護者負担については、国において統一した制度設計とすべきと考えており、国や県に対してしっかりと要望を伝えてまいりたいと考えております。 令和7年4月に設置したこども家庭センターにおいて、妊産婦やヤングケアラー等を含め様々な支援が必要な子どもとその家庭に対して、関係機関と連携を図りながら、切れ目ない支援の充実に引き続き努めてまいります。	B
3	子育て支援の取り組みを行うことで地元に残りたいと思う人も増え、より住みやすい環境をつくることができると思う。切れ目のない支援を通して安心して子育てできることは今の若い世代にとってとても頼れる環境だとも感じる。これらの大館市の取り組みを積極的に発信してほしい。	これまで、子育て支援に関する計画や子育て支援事業については、市のホームページにて取組みを紹介していましたが、子育て世代向けに對しての発信となっており、目にする機会が少なかったと思われます。 今後は、市の公式LINEも活用し、次代を担う若者世代に向けても、積極的な情報提供に努めてまいります。	A

分野別戦略3 力強くひと・ものが行き交う なりわいづくり

施策3-3 まちの特性を生かした商工業

No.	ご意見	市の考え方	市の考え方の区分
4	旧正札竹村百貨店があったところに比べると街がガラんと変わりシャッター街にされた。あの頃の大館とは全く異なる。 空き家を個人店として呼び込もうとしても、時間がかかり、チェーン店を誘致する術がない。 コンビニやチェーン店を置いて欲しいと市民の願望があるのにも関わらず理解が得られない。 中心市街地(大町)の利便性向上を考えてほしい。	空き店舗が見受けられる大町商店街の再開発については、公共・交流拠点の構築を重要な課題と捉え、土地所有者や事業者、市も協力して丁寧に進める必要があることから、地域住民の理解なくして進めることは困難と考えています。他自治体の事例を踏まえて、より慎重に進める必要があると認識しています。 一方、市では、中心市街地などにある空き店舗を活用した出店や起業へのチャレンジを支援(立上げ費用の一部に補助金交付)しており、中心市街地をはじめとして、大館を活気づけたい思いを持った市民・若者にご利用いただきたいと考えております。 なお、商業店舗の出店は、採算性等の観点から民間事業者が独自に判断を行うものですが、市ではこうした民間投資を呼び込むため、魅力的な街づくりに努めてまいります。	B
5	・創業、事業継承の推進と空き店舗再生による市街地の商業機能強化について。 ・新規起業家や事業承継者の拡大 ・空き店舗を再生し、中心市街地活性化の推進について 前年度までは、商店街振興組合を経由した事業のイメージで空き店舗等利活用事業は進められていたにもかかわらず、今年度のプランは十分な組合への説明も果たせられないまま大館市と空き店舗利活用事業者だけで完了している。 そのため、 ① 早急に今年度の仕組みを変更していただきたい ② より良い内容にする為、当方にも十分な説明をした上、意見を反映させたかたちで進めていただきたい。	運用から26年経過し、空き店舗等利活用事業の利用減少を踏まえ、今年度、新制度に移行しております。新制度の設計にあたっては、商工団体代表がメンバーとなる会議での提言を参考としたほか、商業連合会総会場で制度変更を説明しております。変更は、利用者視点に立った使いやすさを重視(利用者や市が直接やり取り、直接補助とすることで、問合せへの即時対応や補助金用途の確実な把握が可能)したほか、商店街振興組合がないエリアでも利用できる仕組みとしております。 なお、商店街振興組合への加入案内については、市から利用者にお伝えすることが可能ですので、PRパンフレット等のご提供をお願いいたします。	A
6	・自然との共生の街 熊、猪、鹿 等のジビエの可能性があるので、検討具体化を。	捕獲鳥獣のジビエ活用には処理加工施設が必要となりますが、整備にあたっては、実施主体や運営形態の調整のほか、加工コスト・供給先確保・安定供給などの課題のほか、採算性も重要であると認識しております。 ジビエ実用化の可能性については、先進事例の調査と情報収集に努めてまいります。	B
7	「空き店舗の再生」とは具体的にどのようにして中心市街地の活性化を図るのか。	空き店舗を利活用する際の支援策(補助金)を行っており、お店を持ちたい、新しいことにチャレンジしたいという意欲のある若者や市民の皆さまにご利用いただきたいと考えております。	B
8	大館に人が残り続けられるような体制整備を。市、学校、企業で連携して地域全体で環境を整えていってほしい。 人口減少の抑制を目指しながら、少ない人口でもまちを育てる取り組みを。	人口減少による少子高齢化への対応は多くの市町村や企業で急務となっており、学校や企業との連携にも努めているところであります。市民の大館定着に加え、他市町村からの転入者が増加するよう、取り組みを進めてまいりたいと考えております。	B

分野別戦略4 未来を見据えた国内・世界へ 架け橋づくり

施策4-2 新たな人の流れづくり

No.	ご意見	市の考え方	市の考え方の区分
9	18～35歳以外は新しさはあまり感じられない。	<p>移住・定住等の促進を図るなかで、全世代を対象としつつ市では18～35歳をメインターゲットと考え、以下の取組みを進めております。</p> <p>①移住検討者向け「お試し移住体験事業」【随時受付中】</p> <p>②首都圏の若い世代との情報交換として「市長とのトークセッションin渋谷」の開催【2025.11.2実施済】</p> <p>③未来の大館市を担う人材の発掘のため、市内高校での講演会や意識調査の実施【今後実施】</p> <p>④Uターン相談デーの開催【11・12月開催】</p> <p>さらに、「二地域居住」の促進を図るため、特定居住促進計画を策定し、国の事業を活用しながら、二地域居住者を地域や産業の担い手とし、移住・定住へと繋げる取組みを進めております。</p>	A
10	「シビックプライドの醸成」とあるが、魅力発信や交流以外に考えていることはあるか。	<p>移住・定住の促進を図るうえで、市では18～35歳をメインターゲットとしながらも、全世代を対象とした施策を展開しております。</p> <p>魅力発信や交流以外の取組みとしては、</p> <p>①移住検討者向け「お試し移住体験事業」【随時受付中】</p> <p>②首都圏の若い世代との情報交換として「市長とのトークセッションin渋谷」の開催【2025.11.2実施済】</p> <p>③未来の大館市を担う人材の発掘のため、市内高校での講演会や意識調査の実施【今後実施】</p> <p>④Uターン相談デーの開催【11・12月開催】</p> <p>さらに、「二地域居住」の促進を図るため、特定居住促進計画を策定し、国の事業を活用しながら、二地域居住者を地域や産業の担い手とし、移住・定住へと繋げる取組みを進めております。</p>	A

その他(複数分野・他施策にまたがるもの)

No.	ご意見	市の考え方	市の考え方の区分
11	図書館を駅周辺に移転し、全天候型屋内大型遊具、カフェ併設など複合施設化することで、若者の利便性が向上し、子育て世代の憩いの場とすることもできるのでは。デジタルデトックスをして、子どものころから本にたくさん触れさせることもできる。交流人口の増加や、駅周辺の活性化につなげてほしい。	現在の栗盛記念図書館は、松下村塾の移築とともに、平成29年に増改築し、増築した多目的室では親子の読書スペースとして、また、ラウンジでは軽食をとることができるなど、好評を得ております。 また、「おひざにだっこのおはなし会」や「図書館でビンゴ」など、子ども達にも楽しんでもらえるイベントを実施しています。利用促進に向けた情報を発信しつつ、今後も利便性向上を図っていきたいと考えております。	B
12	施策3-2「鳥獣被害対策の推進」について (追加・補正) 高齢化などにより猟友会員が減少していますので、第一種猟銃免許取得者の増員を目指し、補助金の増額や積極的な広報活動を展開します。また、一定数を確保するために市職員の取得を推進し庁内に駆除などの実行チームをつくります。を追加してはどうか。	鳥獣被害対策実施隊員の担い手確保に向け、狩猟免許取得に係る費用等への補助の拡充や若い世代への啓発に取り組んでまいります。 また、ガバメントハンターの導入についても情報収集と検討を進めてまいります。	A
13	(追加・補正) 鳥獣被害対策を防犯・災害対策と同等のレベルに引き上げ、市長直属の対策室をつくります。 将来に渡って安全安心なまちづくりのため、情報収集に努め、県・警察・消防などの行政組織と連携し、実効ある市条例を制定します。あわせて県条例や法律の策定について積極的に要望・提言等発信していきます。を追加してはどうか。 *熊の被害は想定外の事態で喫緊の課題である。今対策しなければ被害が加速度的に増大する。「熊のいないまち」宣言をし、駆除などの処理を民間の猟友会に依存するのではなく行政組織として主体的に動くべき。治安対策として警察に権限を持たせるよう法改正にも働きかけ、知見を全国に発信して大館市が熊対策の先駆けとなるよう希望します。	クマ対策は本市においても喫緊の課題と理解しております。市民の安全・安心な暮らしを守るため、迅速かつ確実な対策が講じられるよう県や警察など関係機関との連携を一層強化し、組織体制の強化に努めてまいります。 また、法整備や広域的な対策も重要であることから、あらゆる機会を通じ国や県に対しての鳥獣被害対策に向けた要望を継続してまいります。	B
14	電力の自給を目指す街。大館は木材ペレット以外、主に民生用として小水力の可能性はあるのでは。	再生可能エネルギーの地産地消を通じ、エネルギー費用の区域外流出を止め、サーキュラーエコノミーの実現を目指します。その中心的な役割を担う自治体新電力会社の設立について協議を開始しております。	B
15	山や自然が豊富にあり、環境資源としての魅力は大きいと感じているが、街中は植物や緑が少なく、自然があまり感じられない。身近な緑が不足していることで、景観が単調と感じる。歴史ある建物の価値は大切にしつつ、もう少し明るく開放的な雰囲気をつくることができるのではないかな。	現在、中心市街地を含むエリアで歴史まちづくり事業を進めており、公園等の修景整備や道路の美装化、歴史的建造物の保存補修に取り組んでおります。 いただいたご意見を参考に、今後の事業に活かしてまいります。	A

No.	ご意見	市の考え方	市の考え方の区分
16	子供の医療費の助成を継続実施すること、空き店舗の再生を進め、中心市街地の活性化に取り組もうとしているところが良い。また、定期的にスポーツに限らずイベントが開催されていて、人々の交流につながってとても良い。	—	C
17	地域が閉鎖的に感じる。地域ならではの店も魅力的ですが、チェーン店なども増えると、もっと暮らしやすくなる。	—	C